

公民館の新たなひろがりをつながりをめざして

提 言

平成27年3月

所沢市公民館運営審議会



## はじめに

今期の公民館運営審議会では、いわゆる主催事業だけでなく、地域活動の拠点としての公民館の役割、施設利用、地域情報の収集・発信の必要性などについて審議を進めてきた。

昨今の公民館については、高齢化や自己完結型のライフスタイルなどにより、サークル数や地域行事に関わる役員の減少など、厳しい状況であることが報告されている。

一方で、所沢市市民意識調査によれば、地域活動に協力したいと考える人の割合は20代も含め各世代とも50%前後にわたっている。しかし既に協力している人の割合は10%前後である。

これらを踏まえ、これからの地域活動を担う若い世代へのアプローチとともに、地域活動へ関わる人の広がりの可能性を探る様々なアイデアが提案された。

また、所沢市の総合計画前期基本計画において総合的に取り組む重点課題の第一に掲げられている「地域コミュニティの醸成」に取り組むため、まちづくりセンターが設置されて4年目を迎えている。計画を達成するための目標指標に「地域活動への関心度」「地域活動への協力意向」の向上を掲げ、公民館はこれらの目標達成に取り組むまちづくりセンターの一端としての役割を求められている。

公民館設立当時の文書である『公民館の建設』（昭和46年 公民館協会刊行 文部省社会教育課長 寺中作雄 著）の「何故公民館を作る必要があるか」の中に、「第一に…他人に頼らず自分で考えよう。自分一人抜け駆けをせず、皆と協調して進もう。実行する以上は必ず自分で責任を取ろう。この三つが本当に身についた習性となる迄、われわれはわれわれ自身を訓練しよう。第二に、豊かな教養を身につけ、文化の香高い人格を作る様に努力しよう。第三に身についた教養と民主主義的な方法によって、郷土に産業を興し、郷土の政治を立て直し、郷土の生活を豊かにしよう。」と記載されている。

地域の人と人とがつながり、自分たちの課題に対し知恵を出し合って解決することが相互教育としての社会教育であり、その実践の場が公民館であるならば郷土をつくるという公民館の役割は一層高まっているといえるのではないか。

これまでの公民館運営審議会の答申、提言を踏まえ、新たな地域の関係づくりを目指した公民館像について提言を行うものである。

## 1. 日常的な人材の掘り起こし

本市の公民館は、戦後の早い時期から地区ごとに設立され、様々な地域活動を進めてきた歴史がある。その後、昭和から平成にかけて施設が大型館に建て替えられ、現在は、年間約90万人以上が利用する地域活動の拠点施設となっている。

しかし、公民館の立地条件の違いなどから、利用状況に大きな差異がみられ、様々な地域からの利用が増加するなど、本来の地域の活動の場である公民館と、日常的なサークル活動が乖離している状況もみられる。

年齢層に見られる利用者層の偏り、サークル会員の高齢化とともに、サークル運営や地域の交流に目を向けられず、活動が自己完結し地域に広がりが見られないなどの状況が大きな課題として浮き彫りになってきた。

公民館を利用することから一歩踏み出して、地域の問題を考え、ボランティアとして活動すること、公民館運営や地域行事で日常的に中心となっていく運営委員、リーダー、地域のコーディネーターなどの層を広げていくことが求められている。

これらの課題に取り組む事例として、職員のコーディネートにより世代間のふれあいをつくるなど多様な試みが進められている。公民館事業や地域行事の担い手を育成する機会として、ボランティア養成講座を企画するなど、自己完結から、たのしさや自己実現につなげられる事業企画に取り組み、人が育つ仕組みを公民館が日常的、意識的に行うこと、取り組みを各館で共有することが必要である。

新たな人材の掘り起こしには、情報の収集・発信の仕方が重要である。これまで地域全体に情報が共有されるという発信力が小さかったのではないか。

公民館から発信する情報の中に、サークル情報や様々な世代の情報を盛り込むことにより、横のつながりを深めていく機会ができる工夫が必要である。

アイデアを出し合い、公民館の魅力を高めていく活動を追求していくことが、層の厚い担い手を結集していくことになる。

○日常的に人材を発掘する取り組みを行う。

- ・公民館長及び職員は、公民館事業企画運営委員会、利用サークルの交流の機会などを通して、日常的に、意識的に人材を発掘する方法を検討する。
- ・日々のサークル活動や地域団体に声かけし、日常の活動を相談しあえる環境をつくる。

- 人材情報の収集・発信力を高めるためにインターネット等を活用する。
  - ・人材の募集、地域に協力したい人のアンケート調査、人材のリストなど情報の発信と集約をインターネットの利用を含めて行うことにより、新たな人材発掘が可能となる。また、その作成に関してデータ作成を得意とする人や、アイデアを持つ人の活躍の場となる。
  - ・ホームページ等を活用することにより、人材情報の収集・発信のアプローチを広げる。
  
- 日常的な公民館利用者以外に情報を届ける工夫をする。
  - ・公民館だよりの書き手を広げていくこと、地域情報やいろいろな活動をしている人の紹介などの試みが大切である。
  - ・人脈をもっている人から情報を集め、つないでいく。
  - ・公民館と地域組織の双方で、人材を見つけだすこととつなぐことに取り組む。

#### 具体的な取り組み

- ◇役員の成り手が減少してきたため、団体との合意のもとで、文化祭の運営に関わる役割を先々まで決めている。団体や地域ごとに割り振ることにより、継続的な取り組みが可能となる。
  
- ◇地域づくり協議会は、様々な団体との連携を志向している。それぞれの活動の横のつながりを広げていくことが大切である。その際、職員が地域の人材を知っているので、求められている分野に適切なコーディネート力が発揮できる。
  
- ◇災害ボランティアなど、目的を明確にした活動には参加意識が高い傾向がある。
  
- ◇小学校の社会科見学（公民館見学）の際、事前にスケジュール管理を行い、公民館サークルに協力を呼びかけたところ丁寧な説明をしてもらえ、子どもたちとサークル会員による世代間の関わりが生まれた。
  
- ◇人材の広がりを図るため、小学校、中学校、幼稚園、保育園に向けて情報を提供するための工夫をする。
  
- ◇学校で、公民館事業や地域行事の広報を配布してもらうことにより、子ども対象の事業が広く周知され、世代間の交流の機会を増やせる。

## 2. 地域の財産を活用した取り組み

もう少し視野を広げたとき、地域には、昔からの様々な組織があり行事が行われているということが見えてくる。学校、行事、人材など資源は、見方を変えると日常の暮らしの中では見落とされがちな「財産」といえるのではないか。

そういった何気なく地域の中にあるものを「財産」として見つけだし、地域との関わりを価値のあるものとするにはエネルギーのいることではあるが、これらの財産と公民館との関わりを見直すことにより、新たな人材の広がりが見えてくることもある。

その中で、人そのものが財産であるという指摘は重要な視点である。

様々な世代の住民が実行委員会をつくり、主体となって企画運営されている事業は財産であり、それを職員が支えている。そしてこれらの活動を続けていくために新しい担い手を掘り起こしていく職員の役割は大きい。

自然や伝統なども地域の財産である。これらを公民館から情報発信したり、関連行事として取り上げたりすることにより、これまで十分に活用できていなかった地域の資源と長年の取り組みを結び付け、日常的な利用者とは違う公民館活動の広がりをめざしていくことができるのではないか。

また、負の財産を活用するという指摘も重要な視点である。地域の課題分析を行う中で、地域にとってマイナスの要素と思われる課題が出てきた時、それを解決しようと模索する中で地域を見直し、より豊かな人の関わりや新たな活動が見えてくることもある。

○地域の財産に気付き、結びつけていく。

- ・地域にある財産について、様々な視点から発掘する取り組みを行うとともに、情報発信したり、関連行事として取り上げる。
- ・長年培われてきた取り組み、新たな活動など、その地域の財産を関連付けることにより、日常的な公民館利用者と異なる人材の広がりをめざす。
- ・従来のサークル活動と地域をつなげるためにと、新たな地域の財産を見つけ出し、関わりをつくることが求められる。

○新しく創られていくものを財産ととらえることもできる。

- ・伝統的なもの、古くからあるものを守るという発想だけでなく、他地区から転入してくる住民が多い地域では、身近な変化に目を向け、みんなで新たに取り組むことが財産になっていく。

#### 具体的な取り組み

- ◇地域に在住している職人を囲んで日頃の作業の話しを聞き、次は聞いていた人が話すといった、これまでも公民館が進めてきた相互学習を取り入れる。地域の中の営みを知り、魅力を知り、一緒に育てる。古いものだけでなく、人そのものが財産であり、みんながこの地域に住んでいてうれしいと思える、そのつながりも財産となる。
- ◇地域内の交通事故が多いことを知り、負の財産と捉え、地域づくり協議会の取り組みとして高齢者の交通安全教室を実施し、負の解消に取り組んだ。
- ◇様々な切り口で地域の方々と一緒に事業を企画し地域の財産を掘り起こしていくことにより、地域の魅力、歴史など多面的な意義が明らかになる。地域づくり協議会の発足記念事業としてウォークラリーを計画したところ反響があり、住民が地域を知る機会、歴史を継承する機会、旧住民と新住民が地域を共有する機会となる。

### 3. 従来の利用者層と異なる人の参加のために

公民館サークルが自己完結しているといわれるが、公民館自体も自己完結しているのではないか。公民館での学習文化活動、公民館の施設提供を通して、公民館活動を地域に開いていく、このことで様々な人が参加できる機会ができて交流が広がる可能性がある。

小・中学校や高校はボランティア活動の機会を、大学は学生の体験と学びの両方の場を地域に求めて受け皿を探していると言われている。

選挙権に関し投票年齢が18歳に引き下げられるという報道もあり、社会の一員である青年層の社会とのつながりや責任ある行動が求められている。

子どもと学校の取り組み、そして成人のつどいに新成人が実行委員として公民館に関わることは行われており、すぐに地域のボランティア活動につながるとは限らずとも、地域とのつながりの出発点になっている。その中間にあたる、中・高校生などの若者の意識を育てる新しい取り組みや従来の利用者層と異なる若い世代へのアプローチをし続けることが必要である。

青年層へのアプローチはもとより、青年の自立や青年層を育てる親の役割を学ぶ場を作ることも必要である。

公民館活動は、お互いの考え方の違いを認め、新しい発見や出会いにつながる学びあいであり、新たな視点とともに、参加者同士が表現し、学びあうような学習形態の広がりも求められているのではないか。

仕事を辞めた後、生きがいのあることをやりたいと思う中高年の方々は多く、公民館利用者の多数を占めている。中高年の方々の中には、退職後に、ハードルが高い研修を受けて今までできなかったことをしたい人、人と交流してゆったりとした楽しみを追求したい人など様々なニーズがある。

地域への戻り方は多様性があると思われるが、何かをやりたい人の声を聞きながら、丁寧に企画することが必要である。

○学生の様々な体験活動を取り上げる。

- ・小・中学校、高校、大学の様々な活動も地域の財産である。小・中学校のボランティア体験、高校や大学の部活動、授業等と地域が連携することで、若い世代の地域参加の機会となり、同時に協力関係を築くこともできる。
- ・学生を急や無理ではない、緩やかにつなげていくような機会を、公民館活動の中につくる。
- ・積極的に若い世代に声をかけ、公民館に関わってもらえる環境をつくる。
- ・日常的な青少年活動の取り組みを大切にする。

○公民館とNPOの協働により若い世代の受入を可能にする。

- ・外国人との文化交流、自然保護、環境問題など、NPOが大学生を広く受け入れている状況があり、公民館とNPOと一緒に若い世代を受け入れていく可能性を探る。

○相互学習、体験交流型の企画をする。

- ・語りたい人、聞く人が、その場でお互いに講師となれるような、相互学習の場、体験交流型の取り組み、参加者同士のつながりができる企画があれば、これまでの事業からひろがりが見られる。
- ・お互いに体験を語り合う、学びあいの機会を大事にする。

○地域へ戻ろうとする人の生の声を聞く

- ・新たに地域参加をしようとする人に向けた取り組みとして、どんな場なら参加しやすいか、参加してみたいか、新人勧誘のイベントか、新たな人が参加できる文化祭かなど、思いを聞く機会をつくる。



#### 具体的な取り組み

- ◇青年層に、社会を知り社会の中で大人になっていくための活動が求められている。他自治体の明るい選挙推進協議会では、選挙に関する出前授業を大学で行っているケースがある。
  
- ◇大人と子どもがつながる機会、ふれあう場の広がりを実現するために、高齢者による昔あそびの伝承を文化祭に加えるなど、子どもが参加できるプログラムを工夫する。
  
- ◇子どもの行事には親が積極的に関わる人が多いので、その際に若い親同士の交流の機会を設ける。
  
- ◇学校行事に一般の人が入ることは難しいが、PTAと公民館が連携して子どもに関わる取り組みを広げていくことや、学校と地域の連絡協議会の定期的な開催、地域づくり協議会の青少年育成部会での計画的な学校と地域の調整などにより、それぞれの課題を話し合う機会をつくる。
  
- ◇成人のつどいで、新成人が関わり自ら企画をした例、地域の実行委員の方と触れ合うことで地域の方が関わってくれていることを知り新成人から感謝が述べられる事例がみられる。

## 結びに

公民館長の諮問機関である公民館運営審議会として、今期は、公民館で活動する人々の新たな関係づくりについて、従来の団体・サークルの役割の広がり  
の必要性、新たな参加者とのつながりなどの方向性が提案できた。

地域には様々なくらしがあり、それぞれの世代が役割を果たしながら生活を  
営んでいる。審議の中で、これまでの日常的なつながりを丁寧に掘り起こして  
いくことが大切であることと同時に、従来の公民館の枠を少し広げたときに新  
たな参加者層や活動が見えてくるのではないかとということが提起された。

さらに、審議の中で組織、行事、施設のあり方などが地域ごとに様々な特性  
を持っており、これらのあり方を含めた人と人とのつながり、掘り起こし、広  
がりを進めることは、多様性と工夫が必要であることが明らかになってきた。

公民館は、地域の絆を紡ぐまちづくりを行う最先端の機関である。行政の職  
員配置は、ともすれば管理部門的な組織に手厚くなりがちなので、提言の実効  
性を担保するためにも、地域との関わりに機動力を発揮できるその現場にこそ  
職員の再配置を求めたい。

これらの提案を公民館職員で共有し、積み重ね、ふくらませて、公民館事業、  
地域づくりへの具体的な取り組みにつなげていくことを期待している。

公民館は様々な可能性をもっている。学習や文化を通じて人の生きがいを追  
求できる場所であり、公民館の豊かな可能性を、地域の人たちが共有できる  
という発信力を、自信をもって進めていただきたい。

この提言が、公民館の新たなつながりとひろがりをめざしていく一助となる  
ことを願っている。

## 所沢市公民館運営審議会・提言検討経過

| 回 | 日 時         | 検 討 事 項 等                                                                    | 備 考   |
|---|-------------|------------------------------------------------------------------------------|-------|
| 1 | 平成25年 8月27日 | <b>公民館運営審議会①</b><br>・公民館運営審議会の位置づけ<br>・まちづくりセンターについて<br>・子ども・高齢化に関わる取り組みについて |       |
| 2 | 平成26年 1月22日 | <b>公民館運営審議会②</b><br>・サークルと地域のかかわり<br>・施設の活用<br>・公民館だよりのあり方                   |       |
| 3 | 平成26年 3月19日 | <b>公民館運営審議会③</b><br>・公民館職員の役割と専門性<br>・施設の活用                                  |       |
| 4 | 平成26年 7月25日 | <b>公民館運営審議会④</b><br>・地域の方が気軽に公民館に関われるために<br>・公民館らしい社会教育業務について                |       |
| 5 | 平成26年11月25日 | <b>公民館運営審議会⑤</b><br>・提言素案作成に向けた審議                                            | 素案の作成 |
| 6 | 平成27年 2月10日 | <b>公民館運営審議会⑥</b><br>・提言素案の検討・確定に向けて                                          |       |

## 所沢市公民館運営審議会委員名簿

任期：平成 25 年 7 月 1 日～平成 27 年 6 月 30 日

| 区分      | 氏名      | 選出母体                 | 備考                                   |
|---------|---------|----------------------|--------------------------------------|
| 学校教育関係者 | 高 橋 等   | 小学校長会選出              | 平成 25 年 7 月 1 日～<br>平成 26 年 3 月 31 日 |
| 学校教育関係者 | 山 本 直 子 | 小学校長会選出              | 平成 26 年 7 月 1 日～                     |
| 学校教育関係者 | 北 田 耕 一 | 中学校長会選出              |                                      |
| 社会教育関係者 | 中 村 龍太郎 | 中央地区選出               |                                      |
| 社会教育関係者 | 北 田 有 司 | 小手指地区選出              |                                      |
| 社会教育関係者 | 藤 野 邦 夫 | 富岡地区選出               |                                      |
| 社会教育関係者 | 内 野 幸 雄 | 吾妻地区選出               | 委員長                                  |
| 社会教育関係者 | 内 田 喜久男 | 柳瀬地区選出               |                                      |
| 社会教育関係者 | 越阪部 芳 加 | 松井地区選出               |                                      |
| 社会教育関係者 | 三 原 由紀子 | 新所沢地区選出              |                                      |
| 社会教育関係者 | 本 橋 賢 一 | 三ヶ島地区選出              |                                      |
| 社会教育関係者 | 梁 瀬 正 明 | 山口地区選出               |                                      |
| 社会教育関係者 | 山 崎 修 央 | 新所沢東地区選出             |                                      |
| 社会教育関係者 | 小笠原 幹 郎 | 並木地区選出               |                                      |
| 学識経験者   | 佐 藤 一 子 | 法政大学キャリア<br>デザイン学部教授 | 副委員長                                 |
| 学識経験者   | 倉 持 伸 江 | 東京学芸大学総合<br>教育科学系講師  |                                      |

平成27年3月  
所沢市公民館運営審議会

事務局：所沢市教育員会教育総務部社会教育課  
所沢市並木一丁目1番地の1

TEL 04(2998)9242

FAX 04(2998)9167

e-mail: a9242@city.tokorozawa.saitama.jp